

食料経済学特論演習Ⅱ (2単位)

担当者氏名 菊地昌弥・上岡美保

◆学習・教育目標

経済のグローバル化が進行している中でフードシステムや我々の食生活は大きく変化してきた。先進国を中心に農産物や食品の貿易が拡大し、消費者と生産者との間の空間的距離や社会的隔絶は大きくなっている。それとともに、伝統的な食生活からアグリビジネスや外食企業などが提案する食生活に変化した。その結果、健康問題、地域格差、安全性、食文化の喪失、食習慣の乱れなど、数々の問題に直面している。本演習ではこのような課題に対して経済学的・地理学的観点から受講生が幅広い知識を身に付けるとともに、論理的に議論を構築することができるようになることを目標とする。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

食料問題	食品流通	フードシステム	食料消費
アグリビジネス	マーケティング	食品安全	食育

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	世界の食料問題：第1～2週	食料需給，GMO，緑の革命等	レジュメの作成・該当部分の予習
2	農産物輸入の増加：第3週	野菜，穀物等	〃
3	農業貿易交渉：第4～5週	WTO，FTA，EPA等	〃
4	多国籍企業の支配：第6週	フードレジーム，垂直統合等	〃
5	食料消費の変遷：第7～8週	洋風化，生活習慣病等	〃
6	農産物流通構造：第9週	外食産業，スーパーマーケット等	〃
7	食文化の画一化：第10週	マクドナルド化，スローフード等	〃
8	安全性と表示：第11～12週	有機農産物，食の不祥事等	〃
9	外食産業の動向：第13～14週	食事バランス，農村体験等	〃
10	フードシステム：第15週	国内農業，ブラックボックス等	〃

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

授業の最初に指示する。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

食料システムの経済分析（唯是康彦・三浦洋子）農林統計協会（2003年）

食料経済（高橋正郎）理工学社（2006年）／フードシステムの空間構造論（高柳長直）筑波書房（2006年）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポート（30%），課題のプレゼンテーション（20%），授業中のディスカッション（25%），授業中の演習（25%）

◆その他受講上の注意事項

授業の進行については一例であり，具体的には授業時に指示する。